

《 V 学生支援 》

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、当該短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

本学案内（パンフレット）ならびに本学ウェブサイトのなかで、建学の精神や教育理念は創立者の紹介とともに明示している。また、教育目的・教育目標、求める学生像についても本学案内（パンフレット）の短期大学副学長ならびに保育科長、キャリアデザイン学科長の言葉のなかで明示している。

◆名古屋経済大学案内（パンフレット）2008 版 参照

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜の方針、選抜方法などは学生募集要項、AO入試リーフレットおよび本学ウェブサイトにて明示している。

◆名古屋経済大学入学試験要項 2008 版 参照

◆名古屋経済大学AO入試リーフレット 参照

(3) 広報および入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また、入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

1. 入試担当の体制

入試に係る組織は以下のとおりである。

入試対策委員会

入試選抜方針をはじめとする入試全体の方針を所管し決定する。

構成員：副学長、学部長、学科長、入試委員長、事務局次長、
学務部長、入学広報部長

入試委員会

入試対策委員会の方針を受けて具体的な運営方針を所管し、決定する。

構成員：入試委員長、両学科入試委員、入学広報部長

入学広報部

入試対策委員会および入試委員会の決定事項を受けて入試業務準備を実践する事務局組織であり、部長以下、主事、事務員5名の態勢である。

入試選考委員会

入試の選考を行い、原案を教授会に提出する。

構成員：学園長（学長）、副学園長、副学長、事務局長、事務局次長、保育科長、キャリアデザイン学科長、入試委員、教務委員長、学生委員長、入学広報部長、教務課長、学生課長

2. 広報担当の体制

入試に係る広報については、事務局組織である入学広報部の所管であり、各種入試ならびにオープンキャンパスへの受験生の勧誘など、年間広報活動予定に基づき、事務局長および入学広報部長の合議により、広報活動を行っている。

3. 入学志願者や高等学校などからの資料請求や問い合わせ

資料請求や問い合わせは年間およそ 15000 件あるが、入学広報部が窓口となって対応している。またオープンキャンパス、入試相談会、大学見学会などの全学的な行事においても入試相談を実施している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1. 入学者の選抜

入学者の選抜は、入試選考委員会が担当する。同委員会が選考を行い、原案を教授会に提出する。

なお、AO入試については、両学科長、入試委員および入学広報部職員がアドミッションオフィスチームを組織し、選抜にあっている。

入試選考委員会が立案した選考案は、試験ごとに教授会に提案され、審議の上でこれを決定している。

2. 選抜方法ごとの流れ（平成 19 年度実施分）

(1) AO入試（専願）

- ① エントリーシートの提出 ②小論文と集団面接
- ③ 調査書審査と個人面接 ④合格者選抜

(2) 指定校推薦入試（専願）

- ①出願 ②調査書審査と集団面接 ③合格者選抜

(3) 内部校推薦入試（専願）

- ①出願 ②調査書審査と集団面接 ③合格者選抜

(4) 公募制推薦入試（併願）

A方式

- ①出願 ②基礎力テストと調査書審査 ③合格者選抜

B方式

- ①出願 ②小論文と調査書審査 ③合格者選抜

C方式

- ①出願 ②基礎力テスト、調査書審査、個人面接 ③合格者選抜
- D方式
 - ①出願 ②小論文、書類審査、個人面接 ③合格者選抜
- E方式
 - ①出願 ②書類審査（調査書、自己PR書、資格検定に係る書類）、面接
 - ③合格者選抜
- (5) 一般入試
 - ①出願 ②学力試験と調査書審査 ③合格者選抜
- (6) 「大学入試センター試験」利用入試
 - ①出願 ②大学入試センター試験の成績確認と調査書審査 ③合格者選抜
- (7) 社会人入試
 - ①出願 ②小論文、書類審査、個人面接 ③合格者選抜

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

[保育科]

保育科では、推薦入試合格者に対して漢字、作文など基礎学力に関する課題、絵本や児童書に関する課題を入学前指導として実施し、添削して返却している。その際、在校生からのメッセージを同封し、大学生活に必要な情報を提供している。また希望者には本学でのピアノの実技レッスンを実施し、保育者として必要な技能の習得を促し、支援している。

[キャリアデザイン学科]

キャリアデザイン学科では、入試合格者に対して、日本の都道府県名および漢字検定2級レベルに準じた問題を課し、添削して返却している。入学後、新入生対象に行うフレッシュマンセミナーにおいて入学前教育で指導した問題に再度取り組ませている。

なお19年度には希望者に対し、入学前に付属高校にて15回にわたる特別講座（Word Specialist 資格取得講座、漢字・文章表現講座、数学基礎講座、英語基礎力講座）を開講した。受講者に対しては入学後、対応科目の単位として認定する。

また、入学手続き者全員に対し、大学の年間スケジュールおよび履修登録方法の概要等の情報を提供し、スムーズに大学生活に対応できるよう配慮している。

なお、すべての入学手続き者に対して、入学案内に併せて入学式、オリエンテーション、フレッシュマンセミナーの日程および海外語学研修の案内を自宅へ郵送している。

◆「入学手続要綱」 参照

(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

新入学生に対しては、入学時に3日ほどの期間をとり、公的なオリエンテーションを実施している。中でもとりわけ重要視される教務委員会関係と学生委員会関係は、学科ごとにおこなわれる。その際、両学科とも、合宿形式のフレッシュマンセミナーを実施し、オリエンテーションの効果を高める取組みを行っている。

[保育科]

フレッシュマンセミナー

入学式直後のガイダンスの一環として行う一泊二日の合宿セミナーである。円滑に大学生活を行うために入学当初の緊張と不安を取り除くために、大学の講義形態、履修の仕方などの教務関係のガイダンス、学生生活で気をつけなければいけない諸注意、様々な届出を受け入れる場所や手続きについての案内など、学生生活一般の初めに分かっておいてほしい事柄を説明するガイダンスを、セミナーの中心目標にすえている。

また、保育科の教員、副手と新入生の交流の場となっており、分からないところはゼミナール教員に気楽に助言を求められる関係を築き、新入生自身が大学において新しい友達を見つける最高の機会となっている。

[キャリアデザイン学科]

フレッシュマンセミナー

キャリアデザイン学科でも一泊二日にわたってフレッシュマンセミナーを実施し、教務委員会関係、学生委員会関係ガイダンスのほか、種々のガイダンスやインフォメーションを与え、また学生からの質問に応じている。

キャリアデザイン学科のカリキュラムは保育科のそれと対照的に、必修科目がきわめて少なく、入学生は自分の将来設計に合わせて独自の時間割を組まねばならない。フレッシュマンセミナーは、教員が個別に相談に乗りながら、新入生が履修計画を立てる重要な機会になっている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

[保育科]

(1) 入学式直後からガイダンス期間として基本的には3日間が充てられている。オリエンテーションの中で、教務委員から授業形態や授業時間などについての説明を受け、選択すべき科目の概略を聞き、具体的な履修指導を受ける。

(2) 保育科で修得しようとする資格取得に必要な科目単位数は非常に多く、ともすれば間違えやすいことから、学期ごとに成績発表後の機会を捉えて既習科目の取得単位数の確認を行うとともに、次の学期に取るべき必要な科目について指導を行っている。

(3) 上述の他に適宜指導教員から個々の学生に対して様々な情報が与えられる。

[キャリアデザイン学科]

入学当初の教務委員会ガイダンス、学外にて一泊して行うフレッシュマンセミナーにおいて、履修指導、資格取得に関する説明等を行っている。また、2年生に対しては新年度の初めにオリエンテーションを行い、履修上の諸注意、とりわけ卒業要件について周知徹底を図っている。

さらに、各学期末の成績発表の際に、各指導教員が、学生にたいして個別指導を行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物(学生便覧等を除く)があれば参考資料としてご準備下さい。

[保育科]

入学式当日渡される『新入生のしおり』は学生自身の時間割の作成や、各種手続きの方法を確認することに役立っている。

[キャリアデザイン学科]

『キャリアデザイン学科履修ガイド』

◆『新入生のしおり』 参照

◆『キャリアデザイン学科履修ガイド』 参照

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

[保育科]

著しく基礎学力が乏しい学生はいないが、一年前期の基礎演習の時間の中で、大学の授業や学外実習で頻繁に使われると思われる漢字を取り出し学習している。それは、既に大学受験が完了した段階で行われている入学前教育と連動し、より効果的に実施されるよう図られている。この授業ではまた、漢字ばかりではなく様々な文章を書くことによる文章表現能力の伸長も企図されている。

ピアノの実技指導においても、入学前のチェックから始まってより効果的な指導ができるように考えられている。少人数体制の授業形態が早くからとられているが、グレード制はとっていない。なぜなら、優れた同級生のピアノ演奏は少し力の劣る学生の良い目標となっており、その存在が学習意欲を掻き立てる役目を果たしているからである。

また声楽では音程がうまく取れない学生に対して個別指導をしている。

さらに、幼児体育では、逆上がりのできない学生に対して個別指導をし、全員ができるまで支援している。

[キャリアデザイン学科]

すでに述べたように、入学前教育ならびにフレッシュマンセミナーにおいて、漢字能力や都道府県名、県庁所在地に関する知識など、基礎的な力を測定している。

1年前期のゼミナールⅠでは、研究テーマの設定、レジュメの作成、プレゼンテーション、そしてレポート作成について、学生相互に評価しあうとともに、教員が学生に対して個別にアドバイスを与えている。これは短期大学における勉学の基礎をなすものである。学力の優れた学生にとっては実力を示すよい機会であり、逆に力の乏しい学生にとっては、学ぶことの本来のあり方を初めて知る貴重な機会となっている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

[保育科]

本学では少人数担任体制を一貫してとっており、それによって指導教員やゼミナール教員が履修や就職、学生生活一般の各種の悩みや問題に対する指導や助言が可能となっている。さらに、全学的にオフィスアワーを設定し、指導学生にとどまらず幅広く学生の相談にのっている。

また、大学構内には看護師の常駐する医務室や、心の問題について助言をしてもらえるカウンセラーが常駐する学生相談室があり、学生の相談に対し専門的なアドバイスを行っている。

さらに、セクシャルハラスメントに関する問題については、学科ごとに窓口としての委員を配置するとともに、それらを集約する全学的な防止対策委員会を設置して対応している。

[キャリアデザイン学科]

学科としてはゼミナールの担当教員が指導教員として直接学生の相談に応じている。学生が望めば、ゼミ担当以外の教員が相談に応じる態勢を整えている。とくに学期初めと学期末には、目標設定と取組みの成果について、個別に面談し、指導助言を与えている。

大学全体としては学生相談室の臨床心理士、あるいは医務室の看護師が種々の悩み事の相談に応じている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

[保育科]

大学全体で組織的な取組みは行っていないが、学科単位の取組みでは次のようなことがあげられる

個々の教員において、より進度の高い内容へのアプローチを補助するような対応がなされている。たとえば専門科目の「器楽」においては、ピアノの進度に合わせて難易度の高い作品に取り組むように計られている。また、付加的な目標としてホームヘルパーの資格取得講座への参加を勧めることなどが行われている。

当然ながらそれら意欲的な学生に対しては、各分野で研究を促すために参考文献や各種研修会の紹介なども行われている。

[キャリアデザイン学科]

平成19年度後期より開始された「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラム(現代GPに選定)は、必修科目のゼミナールⅡのワークショップ活動を基礎においている。すべての学生とすべての教員が参加している。ワークショップ活動は、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の育成を目指している。この取組みでは、各ゼミナールの優秀な学生がリーダーシップを発揮して初めて成果を上げることができる。まだ半年の取組みであるが、着実に成果が上がっている。

さらにいくつかの学科科目において、成果を挙げるべく優れた学生のために個別の指導、あるいは正課外での集中指導が行われている。

(1)販売士、TOEIC、色彩能力検定、ワープロ検定などの検定試験に際しては、直前の集中対策講座や、年間を通じた個別指導が行われている。また、とくに優れた学生に対しては、学科科目の枠を超えて、他の検定(「ホームページ作成検定初段」、MOS Word Specialist 試験)受験を勧め、個別指導を行っている。

(2)インターンシップについては、研修先の選定、事前指導、事後の成果発表会という一連の指導において、個々の学生に対して懇切な対応をし、大きな成果を挙げている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

1. 学生委員会

学生生活を支援するための組織として、本学では2学科からなる学生委員会を組織している。構成員は、各学科から選出された教員と事務局の学生課長である。当委員会は定例として原則1ヶ月に1回開催し、必要に応じ、臨時に開催している。審議する内容は、学生の身上異動、課外活動、福利厚生など学生生活全般にわたり、重要案件に関しては教授会に提案、一般案件に関しては報告し、それぞれ承認を得て、実行に移している。

2. 学務部学生課

上に述べた学生委員会は主に教員で構成された組織であるが、事務局員で構成されているのが学務部学生課である。構成員は、学生課長1名、学生課員7名、医務室員1名、学生相談室カウンセラー1名、男子学生寮長1名、女子学生寮長1名の計13名である。

その主な業務分掌は次のとおりである。

・学生課員〔学生課長を含む〕

学生よりの願、届(身上異動、課外活動)の受付業務、学生生活指導、課外活動施設の管理、各種奨学金制度の学生への紹介およびその手続きなど。

・医務室員

学生の健康管理。怪我の処置、病人への対応。

- ・ 学生相談室カウンセラー
学生からの心的な相談への対応。
- ・ 寮長
寮生の寮生活の支援と管理。寮生の保護者との連絡など。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

本学では、課外活動の活性化と課外活動への学生の加入率の向上は、学生が学生生活をより有意義に過ごし、大学への高い帰属意識を持つためには不可欠であると考えている。

1. クラブ活動

(1) 概況

短期大学部においては2年間の短い在学期間ということもあり、クラブ活動は年々低下しており、後輩に引き継ぐことが困難な状況となっている。そのため廃部に追い込まれる事例も見られた。この事から平成19年度より併設大学とのクラブ統合を図る事とした。その際事務職員も副顧問としてその指導に当たることを可能とした。これにより18年度は短期大学部7団体であったが、統合により49団体となり、短期大学部学生の所属する団体も14団体となった。まだ所属する学生数は少ないものの、この措置はクラブ存続の一助となった。今後の課題はクラブ活動そのものの活性化であると考え、19年度はクラブ代表者会議の定期的な開催と学校内外の行事の紹介、参加の促進など、積極的なアプローチを試みた。

平成20年度入学式当日には、大学短大合同のクラブ紹介イベントを企画し、新入生のクラブ勧誘を積極的に行うべく学生自治会・クラブ代表者を中心に取り組んだ。

(2) 団体結成の奨励

体育系、文科系を問わず、1つでも多くの課外活動団体が設置されることを目標に掲げ、学生自身が自分のやりたい内容の団体が無いのであれば、それを創りやすい環境造りを心がけている。

(3) 部室の設置と提供

本学では、公式に認められている団体には原則として1団体に1つの部室を提供している。部室とは、各団体が活動に使用する用具を保管する場所であることは言うまでもないが、同じ目的を持った者同士が集まり、憩える場所であると考えているからである。また、部員数が多く、1つの部室では明らかに不足であると認められる団体には2つの部室を提供している。

(4) 合宿所の設置

本学では学生が宿泊できる施設(合宿所)を2棟(A棟、B棟)設置し、その活用を各団体に呼びかけている。

これは、宿泊を伴う課外活動(合宿)が、体育系、文科系を問わずその技術を高めるだけではなく、例えば短期間であっても、一緒に寝泊りし、生活を共にすることで部員同士の精神的な信頼関係を強くするものであると考えているからである。

なお、平成18年度にA棟を改装している。

2. 大学祭

毎年10月第3週の土・日を開催日として大学祭を実施している。

本学の大学祭は短期大学部・大学合同で開催され、その企画運営は大学祭実行委員会と学生自治会が中心となって行っている。

5月には大学祭実行委員会と学生委員会、学生課員との打合せが行われ、ゼミナールやクラブへの、展示・模擬店の募集が始まる。すべて学生の企画で運営されている。

祭典では、学生間の親睦を図るためのバドミントン大会や、地域の人々と交流をはかるための、地元チームを招いてのバレーボール大会（17・18年度）やソフトボール大会（19年度）が開催されている。また、17年度より職員も部局ごとに模擬店等に参加している。ゼミナールの指導教員・クラブ顧問は展示や模擬店の運営において、計画段階から学生とともに参加し、指導・助言に当たっている。

短期大学部学生自治会は毎年子供向けの移動動物園を企画しその運営に当たっている。

このように大学祭は大学短大の総力を挙げて取組み地域住民との交流を図る企画となりつつあるが、短期大学部から大学祭実行委員会に加わる学生が少なく、四大に依存する状態となっていることは懸念材料である。

3. 卒業記念パーティー

短期大学部の卒業記念パーティーは学生自治会が主催し、卒業式終了後、学内のコミュニティプラザで開催されている。

企画・立案・会場の設営・パーティーの進行・後片付けまですべて学生自治会が行う手作りの企画である。卒業記念パーティーには学生委員会および学務課員が支援・指導を行っている。

4. 学生自治会の現状

学生自治会執行委員会は、新入生歓迎行事、大学祭企画、卒業記念パーティー、そして献血や募金活動に従事している。執行委員会役員は本来学生の選挙で選ばれるものであるが、長年そうした事例を見ていない。毎年、教職員が実行力を期待できる学生に役員を引き受けるよう勧誘説得して、なんとか空席となることを回避している。役員を引き受けた学生は、ゼミナールが選出した代議員の会議で承認されている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお、訪問調査の際にご案内いただきます。

(1) コミュニティプラザ

1階は1,000名を収容できる学生食堂として、定食コーナーとカフェテリアコーナーを備えている。2階には書籍、ステーションナリーを販売する丸善書店とコンビニエンスストアを併設、ラウンジも休憩の場、食事の場として利用されている。

(2) 1号館学生自習室

主に学生の自習、休息の場として利用されており、飲料の自動販売機を設置している。

(3) 2号館学生ホール

主に学生の自習、休息の場として利用されており、飲料の自動販売機を設置している。

(4)6 号館学生ホール

学生の自習、休息の場であるとともにコンビニエンスストア「ローソン」とたこ焼きなどの軽食を販売する「たこー」、飲料・麺類の自動販売機も設置され、飲食可能な空間となっている。

(5)バーベキュー施設

学生が憩える場の設置が学内で叫ばれるようになり、その結果、平成18年4月、学内の体育館横にバーベキュー施設を設置した。これは3つの釜を擁し、1度に約30名が使用できる施設である。参考までに、平成19年度の利用件数は30件(大学の利用も含む)。

(6)コンビニエンスストア(ローソン)の誘致および設置

以前より食堂内にコンビニエンスストアを設置していたが、学生よりローソンなどのいわゆるブランドであるコンビニエンスストアの設置を望む声が多々あった。これに応えるべく平成19年4月1日より6号館学生ホール内にローソンを誘致し開店した。

(7)携帯電話充電器の設置

これは特に学生から設置の要望があったわけではないが、この設備があれば学生が重宝するであろうとの本学独自の考えから、平成19年4月20日よりコミュニティプラザ内に当機器を設置した。参考までに使用形態は有料で1回100円(充電時間は20分)。

(4)短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舎の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

(1)学生寮

遠方より入学する学生に対する経済的支援として本学では学生寮を設置している。女子寮(呉竹寮)はキャンパス内に設置しており、寮費に関しては、保護者の負担を配慮し、安価な寮費を設定している。

また、各寮には学生部所属の職員である寮長を配置して寮生の生活状況を常に把握し寮生からの相談に対応できる体制を整備している。各寮の主な内容(寮費等)は次のとおり。

寮の名称	蓮池寮(男子) ※学外	呉竹寮(女子) ※学内
定員・寮室数	28名 ・ 14室	36名 ・ 18室
1室収容人数	2名	
入寮費	5万円	8万円
寮費(1年分)	19万2千円	21万6千円
寮室の設備	洋間(12畳分)・冷暖房完備 洋服ダンス、整理ダンス、学習机、椅子、ベッド(布団持参)各2組	
共用の設備	洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、テレビ(衛星放送、ビデオ)、 アイロン、電気釜、ミシン、オーブントースター、電子レンジ、 ガスコンロ等	

(2)アパートの紹介

本学では、遠方から入学する学生で学生寮ではなく、民間のアパートに入居を希望する者に対して紹介をおこなっている。具体的には、家主や管理する不動産業者と連携し、毎年、1月下旬から入学予定者に紹介している。また、一定期間、日曜日にも学生部員が臨時に出

勤し、希望者に対応している。

(3) スクールバス

平成 19 年度より、それまでの名鉄との路線バス契約によるスクールバスから転換し、本学所有のスクールバス 3 台による最寄り駅と大学との送迎を始めた。8 時 30 分始発から夜間 8 時 20 分最終まで、平日は 40 便走らせる事で学生の通学の便を図っている。

(4) 学生駐車場

自動車通学を希望する学生は学生課に届け出ることにより許可している。学生駐車場は図書館横の学生駐車場と体育館横の学生駐車場の 2 ヶ所設けており、合わせて 1,200 台の車が駐車可能である。また、バイク通学も届出により許可している。

自転車通学者用には 2 箇所の自転車置き場が設置されている。

(5) 平成 19 年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

本学では学生に対する経済的な支援として次の奨学金を取り扱っている。

貸与制：日本学生支援機構奨学金、提携銀行教育ローン(みずほ銀行、東春信用金庫)

給付制：名古屋経済大学留学生奨学金

以上については学生課の掲示板および奨学金に関する冊子により、学生に紹介をおこなっている。

日本学生支援機構奨学金取得者数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
第 1 種	14 名	7 名	9 名
第 2 種	6 名	5 名	7 名

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理、メンタルケア・カウンセリングに関しては医務室に専任の看護師 1 名と学生相談室に臨床心理士 1 名を配置し、教員、学生課と連携をとりながら対応している。

(1) 医務室

学生が授業中などに怪我をした際、または体調不良を訴えた際にその応急処置をするために医務室を設置している。

医務室には看護師の資格を持つ医務室員が常時待機して、それに対応している。

また、学生より入学時に既往症の有無などを記載した保健調査書を提出させ、怪我や体調不良が発生した際にその学生に対し、適切な処置ができるように体制を整えている。

さらに、医務室は、学生の普段の体調管理など、学生が健康に関する悩みを相談できる機関としても大きな役割を果たしている。

なお、平成 17 年度、平成 18 年度、平成 19 年度の医務室の利用学生の延べ数は次のとおり。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
相談者数	223 名	188 名	171 名

年 1 回の定期健康診断は毎年 4 月 2・3 日に実施される。受信率はほぼ 100%であり、再検査等指導が必要な学生に対しては個別指導を行っている。平成 19 年度より本人宛に健康診断の結果を郵送している。

(2) 学生相談室

学生が心的な悩みを相談できる機関として、本学では学生相談室を設置している。

学生相談室には臨床心理士の資格を持つカウンセラーが月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の 9 時から 16 時 30 分まで待機して、相談に対応している。近年、様々な心的な悩みを抱える若者が増えていることは周知のとおりである。本学も例外ではなく、年々、学生相談室を訪れる学生数は増える傾向にある。これに鑑み、カウンセラーが待機する時間を延長してこれに対応している。

なお、平成 17 年度、平成 18 年度、平成 19 年度の学生相談室への学生の延べ相談者数は次のとおり。

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
相談者数	126 名	152 名	105 名

毎年 1 回、学生相談室報告会が開催される。これはゼミナール担当教員および学生指導に係る職員を対象としている。常駐カウンセラーの現状報告やアドバイスは、学生対応のための研修として効果が期待されている。

(3) 少人数教育制度とアドバイザー制度

本学では、教員が学生一人ひとりの学生生活を把握しやすい環境を創ることを目的として大学短大の全学年で少人数教育制度を設けている。これは、全学生が必須科目のゼミナール（正式な科目名称は学科によって異なる）に所属し、その担当教員が指導教員となり、当該ゼミ学生の学生生活全般にわたる相談役となるものである。

また、平成 19 年度は、キャリアデザイン学科で、特に多岐にわたる不安や悩みを持つであろうと予想される 1 年次生のゼミナールに事務局員が配置され、アドバイザーとして指導教員の補助にあたった。

(4) セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会の設置

本学では学生がセクシュアル・ハラスメントを学内で受けた際に相談する機関としてセクシュアル・ハラスメント防止対策委員会を設置している。当委員会は短期大学部から 2 名、併設の大学の全学部から各 1 名、事務局から 2 名の計 8 名（女性 5 名、男性 3 名）で組織されている。

さらに、セクシュアル・ハラスメント苦情、相談窓口として短期大学部から3名、併設の大学から7名、学生相談室のカウンセラー、医務室員、学生課長の計13名を配置し、学生が相談しやすい環境を整備している。

実際に、苦情、相談があった場合は相談者である学生の立場を第一に考え、相談学生の不利益にならないように慎重に処理している。

年々、学生相談室への来室者数が増えており、現状のカウンセラーが大学・短大部を含めて一人という体制では処理能力の点で限界に来ており、将来的には、カウンセラーの増員を図る必要があると考える。また、昨今、よく聞かれるセクシュアル・ハラスメント以外のパワー・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントに関し、現状では、セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会がその対応を兼務しているが、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントに専門的に対応できる組織の設置を急ぎたいと考えている。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

学生個々の情報は、学内LANによって管理されており、主に入試・学籍・成績・就職に関する情報が管理されている。アクセスできる情報は限られており、個々にその範囲が定められ、個別のパスワードによってのみアクセスが可能となっている。

紙媒体での情報は施錠された場所での保管が義務付けられている。

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の就職状況等を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

両学科の進路状況は以下のとおりである。数字は平成18年度と19年度のものを用いることとする。

保育科

区分	18年度	19年度
a 卒業者数	119人	104人
b 就職希望者数 b/a	99人 (83.2%)	92人 (88.5%)
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	55人 (55.6%)	47人 (51.1%)
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	42人 (42.4%)	41人 (44.6%)
e 就職未定者 e/b	2人 (2.0%)	4人 (4.3%)
f 進学・留学希望者数 f/a	1人 (0.8%)	3人 (2.9%)
g その他 g/a	19人 (16.0%)	9人 (8.7%)

キャリアデザイン学科

区分	18年度	19年度
a 卒業生数	79人	99人
b 就職希望者数	b/a	b/a
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	c/b
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	d/b
e 就職未定者	e/b	e/b
f 進学・留学希望者数	f/a	f/a
g その他	g/a	g/a

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

[キャリアデザイン学科・保育科共通]

本学では学生のキャリア支援及び就職支援を円滑に行うため就職委員会が設置されている。委員会はキャリアデザイン学科、保育科から選出された教員4名とキャリアセンター長で構成され、就職委員(教員)より選出された就職委員長のもと学生のキャリア形成支援・就職支援に関する事項について協議している。就職委員(教員)の半数は前年より引き続き委員となっているので前年度の反省を踏まえて翌年度の支援スケジュールを組み立てることができ、より学生の立場に立った支援を行うことができている。

キャリア支援及び就職支援を遂行しているキャリアセンターは、キャリアセンター長の他、主事2名、書記2名、嘱託職員2名で構成されている。主な業務の内容としては学生のキャリア形成指導・就職指導・卒業生が勤務している企業への訪問・求人企業の新規開拓・求人紹介・就職相談・キャリア相談等、学生のキャリア形成支援を包括的に行っている。平成17年度からは土曜日も業務を行い、平日は授業等がありキャリアセンター職員とゆっくり話ができない学生や、証明書が急に必要になった時の発行等、学生が安心して利用できるキャリアセンターづくりを心掛けている。

また、キャリアセンターにおいては、主事2名、書記2名がキャリアコンサルタントの資格を有しており、専門的な知識とスキルを使って、就職指導だけではなく、社会に出てからも自らキャリア形成を行うことができる土台作りのために学生指導を行っている。

本学では1年次から全学生がゼミに所属しており、日々の生活指導は教員が行っているが、学生の将来に対する不安、資格取得に関する質問等、より専門的な回答が必要なときは、学年を問わず積極的にキャリアセンターを利用するよう、教員から学生に対して指導を行っている。学生・教員・キャリアセンターが三位一体となってキャリア支援を行っているところが、本学キャリア支援の大きな特徴のひとつである。

[キャリアデザイン学科]

キャリアデザイン学科は総合的なキャリア形成支援を旨とする学科である。それは《Ⅱ 教育の内容》で詳述したとおりである。この項目に即して述べるなら、とくにコア科目の「キャリアデザイン論」「キャリアデザイン演習」で、学生の職業観、職業意識を涵養するとともに、自己分析、企業研究、履歴書作成、面接指導を行っている。また、同じくコア科目の「ビジネスマナー演習」では、さまざまなビジネス場面で求められるマナーを指導している。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

キャリアセンターでは、求人の紹介だけでなく、ガイダンス等を通じて働くことの意味やキャリア形成の大切さを学生に伝えている。

全学生を対象にしたキャリア支援としては、4月上旬から6月末までの間に「就職力バランス診断」を行っている。「就職力バランス診断」は自己理解のためのアセスメントツールのひとつであり、高校生活から大学生活へと生活環境が大きく変わる中で、自分自身を見つめ直し有意義な大学生活を送ってもらいたいとの思いから行っている。学内をはじめ自宅でもインターネットが繋がる環境であれば受検が可能である。診断結果は、本人はもとより教員・キャリアセンターもこれを把握し、ゼミナールならびにキャリアセンターにおける学生指導の参考としている。

1年次生を対象とした就職支援では、学生が就職活動をはじめるにあたっての心構えを10月初旬より指導している。主なイベントは就職ガイダンスであるが、それに先立ち就職活動を開始する学生に対し「就職活動出陣式」を行い、学生の士気を高めている。企業の経営者等を招いての講演を同時に開催するなど、就職活動を通じて学生に学んで欲しいことをあわせて伝えるようにしている。

第一回就職ガイダンス(10月実施)では、今日の就職事情を始め自己分析・職業分析の重要性、採用担当者が学生に求める能力等についてキャリアセンター職員が説明を行っている。

本学ではガイダンスと併行して、学内LANの総合情報システム(通称MELOS)を利用して「進路希望入力」(希望する業界・職種等の入力)を実施している。求人票は学生がWeb上で何時でも閲覧可能であるが、進路希望入力はキャリアセンター職員が学生に対してさまざまな角度から求人を紹介できるようにするための措置である。

また、この時期よりキャリアセンター職員が1年次生ゼミごとに「ゼミ別面談」を行い、卒業後の進路について各学生よりヒアリングを行っている。ヒアリングの内容は卒業後就きたい仕事が既に決まっているか、就職に対する不安があるかなどである。

面談では、集団の中でも恥ずかしがらず自分の考えを伝えることができるか、具体的にどのような行動を起こしているか、自分の意思を相手にきちんと伝えることができるかといった点を職員が確認している。面談後、個々にキャリアセンターへ相談に来る学生も多く、面談の成果を実感することができる。

第二回ガイダンス(11月実施)では、エントリーの方法・履歴書の書き方・面接の方法等就職活動の具体的な進め方について説明を行っている。現在はほとんどの企業が採用活動において何

らかの形でインターネットを活用している。そうした中で情報に埋もれることなく、情報を整理する方法を説明している。採用に関してはほとんどの企業は面接を重視しており、相手に意思を伝えること、相手の話を聞くことの重要性を説明している。

第三回のガイダンス（12月実施）では、就職先の決定した大学4年次生、短大2年次生を招いて、自分自身の就職活動について語ってもらう「就職活動体験報告会」（ディスカッション形式）を、大学と合同で行っている。毎年短期大学部から学生2名を選出し、業界も偏りなく様々な業界の話が聞けるように配慮している。報告者には就職活動の具体的な内容（受験した企業数や試験の内容等）、就職活動を通じて学んだこと、後輩へのメッセージ等を語ってもらっている。参加者も同じ大学の先輩ということで、この一番身近な人たちの話がとても参考になると感じている。毎年多くの学生が参加している。

第四回ガイダンス（1月実施）では、今までのガイダンスの総まとめを行っている。この時期になるとインターネット上でエントリーなど開始している企業も少なくなく、そうした現状を説明している。他に内定をいただいた後の企業への対応、内定辞退、卒業までの心構え等の説明を行っている。

これでガイダンスは終了するが、毎年2月には「学内合同企業展」を開催している。これは学生が各企業の採用担当者より直接話を聞くことができ、貴重な情報収集の場となっている。平成19年度は76社の参加があった。平成18年度からは官庁も参加いただくこととなり企業・官庁と幅広い業界を研究できるようになった。

キャリアセンターでは学内合同企業展参加企業にアンケート調査を行っている。そして企業側からみた本学学生の印象などについて掲示等で学生に伝え、積極的に説明会・試験への参加を勧めている。ゼミ別面談の時点では方向が決まっていなかった学生も、企業展がきっかけで動き出す事例が毎年多く見られる。

2月の企業展の他に19年度は短大2年生と四大の4年生を対象として10月に愛知県中小企業家同友会の支援を受け20社を呼んで企業展を開催した。2月の企業展同様この企業展が縁で就職先が決まった学生もおり成果が出ている。

キャリアセンターでは在学学生だけでなく、卒業後も就職活動を行っている卒業生、現在企業に勤務はしているものの諸事情で転職等を考えている卒業生に対しても、支援を行っている。

キャリアセンターでは、自由に利用できるパソコンを12台設置している。求人情報を始め就職・キャリア形成に関する情報は、平日だけでなく土曜日にも入手できるよう環境の整備を行っている。

ガイダンスの他にキャリアセンターでは、就職試験対策、資格取得支援を行っている。

就職試験対策では筆記試験（SPI、一般常識、時事問題）対策、論作文対策を12月と2月に行っている。いずれも専門の講師を招いて行っており、受講した学生からは実際の就職活動においてとても役に立ったと好評を得ている。

資格取得支援については、資格取得支援講座運営委員会が設置されている。委員会は各学部学科から選出された教員2名とキャリアセンター長で構成され、教員の中から選出された委員長のもと学生に対する資格取得支援スケジュールに関する事項について協議している。

資格取得支援講座ではMicrosoft Office Specialist 認定試験の学内実施をはじめ、各学部学科の特性と関連した資格取得を目指して全学をあげて支援体制を取っている。

平成19年度の開講の講座は次の通りである。

- ①公務員講座（市役所／地方上級・国家Ⅱ種／警察官・消防官 11ヶ月コース）、②保育士採用試験（1年コース）③行政書士、④宅地建物取引主任者、⑤日商簿記3級・2級、⑥3級ファイナンシャルプランナー技能士検定、⑦Microsoft Office Specialist

[キャリアデザイン学科]

キャリアデザイン学科のキャリアデザイン支援室には、キャリア形成・就職活動に関する雑誌や書籍、DVDが整備されており、学生の自由な使用を奨励している。

(4) 過去3ヶ年（平成17年度～19年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

[学長]

本学学生の多くは東海地方の出身であり、就職先も地元企業への就職を望んでいる学生が多い。最近の東海地方の経済成長も追い風となり、求人も多方面の業界よりいただき学生の選択の幅が増えている。

キャリアデザイン学科では多彩な分野の学びを体験することにより自分にあった将来を見つけることを教育目標としており、現在の雇用環境に非常に対応した学生指導ができていると就職率の面から見ても実感している。

保育科は1967（昭和42）年の開設以降40有余年にわたって、人物教育を核とした保育者養成を行っており、東海地方を中心に数多くの幼稚園教諭や保育士を輩出してきている。こうした伝統と卒業生に対する社会的評価は就職実績にも反映している。内定率は毎年95%以上を誇り、その内の85%以上が保育関連の専門職に就くという高い水準を維持し続けている。

キャリアセンターにおいても個別指導を中心に学生からの相談に対して的確な指導や求人案内、キャリア相談など個々の学生にマッチした対応をしており学生満足度調査においてもキャリアセンターは高い評価を学生より得ている。しかし、現在の状況に満足するのではなくより学生のレベルアップを図るために、20年度からは「社会人基礎力」養成を組み入れた教育プロジェクトに取り組むこととしている。

[保育科長]

就 職 先	平成17年度	平成18年度	平成19年度
幼 稚 園	47	31	34
保 育 園	71	47	42
病 院	0	4	2
県立養護学校	0	1	0
老人ホーム・福祉施設	2	2	1
企 業	20	11	9
日本郵政公社	0	1	0
計	140（そのうち85.7%が専門職）	97（そのうち88.7%が専門職）	84（そのうち87.5%が専門職）

保育所や幼稚園への公務員正規採用者数（地方自治体職員）がこの数年間低迷していることが問題点としてあげられる。私立幼稚園・保育所への採用は順調に推移している。しかし、少数ながら就職への意欲が希薄で、学生時代からのアルバイトを卒業後も漫然と続けることにさして抵抗がないものも見られるようになってきている。きめ細かな就職指導で職業観を再構築させたり、自己実現の手段などについて深く考察させたりする必要がある。その一方で、病院や企業内の託児所やベビー服販売、あるいは子ども向け写真館など、従来には見られなかった新しい保育系の職場も出現してきており、これらへの対応も必要となってきた。

[キャリアデザイン学科長]

将来のキャリアに対して様々な考えを持つ多様な学生が入学してくる本学科では、卒業時の身分について一律に評価することは適切ではないと考える。しかし、キャリアを意識し、積極的な生き方を目指す学生達は概して教員の期待を裏切ることなく、中には期待以上の成果を上げてそれぞれの進路に向かって巣立っている。平成 18 年度（学科完成年度）の就職率は 95.3%（平成 19 年度は 2 月末時点で前年比+4.6%）、就職先には大手銀行や証券会社も含まれ、国立大学に編入学した例もあった。学科開設当初と比べ、入学者の意欲、あるいはまた自らのキャリアに対する意識はより明確なものになってきていると感じられる。アルバイトやフリーター志向の学生がより減少し、進学を志す学生、正社員として就職していく卒業生が増加していく気配を感じている。

(5) 過去 3 ヶ年（平成 17 年度～19 年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

進学については専門学校より送付される資料をキャリアセンターで保管し、希望者が自由に閲覧できるようになっている。希望する学生のほとんどはさらなるスキルアップを目指しており、閲覧と同時にキャリアセンター職員のコンサルティングをも受けている。

四年制大学への編入については学務部教務課が担当している。各大学から送付される資料を保管し、編入希望者に提供している。また、1 年次生、2 年次生を対象に編入学説明会を開催し、募集内容を個別に説明している。キャリアデザイン学科には編入学についてのアドバイザーがおり、希望者の相談に乗っている。

海外留学については、英語教育センターが留学希望者の相談に乗り、情報収集の仕方についてアドバイスをしたり、留学斡旋業者の紹介をしたりしている。

4年制大学編入実績

学科名	専攻名	平成17年度	平成18年度	平成19年度
商経科		2	—	—
現代コミュニケーション学科		2	—	—
キャリアデザイン学科		—	3	1
保育科		2	1	2
合計		6	4	3

専門学校への進学実績

学科名	専攻名	平成17年度	平成18年度	平成19年度
生活文化学科	生活文化専攻	1	—	—
生活文化学科	食物栄養専攻	2	—	—
現代コミュニケーション学科		2	—	—
キャリアデザイン学科		—	2	0
保育科		3	0	1
合計		8	2	1

留学実績

学科名	専攻名	平成17年度	平成18年度	平成19年度
現代コミュニケーション学科		1	—	—
保育科		1	0	0
合計		2	0	0

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法・体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況

種別	17年度	18年度	19年度	計
留学生(人)	0	0	0	0
社会人(人)	1	2	1	4
帰国子女(人)	0	0	0	0
障害者(人)	0	0	1	1
長期履修学生(人)	0	0	0	0
科目等履修生(人)	5	3	2	10

(1) 社会人学生の受け入れについて

過去3カ年において4名の学生を受け入れている。他大学に在籍していた場合などは既修得単位についての単位読み替えを行っている。社会人入学生については目的意識もはっきりしているため個々の目標に沿った指導を、指導教員を中心に行っている。

(2) 科目等履修生の受け入れについて

主に保育科卒業生の資格取得のための履修であり卒業時の指導教員が中心となり、学務部と

連携してその資格の取得まで指導している。

(3) 障害のある学生の受け入れについて

特に受け入れに関しての制限を設けていない。幸い現施設での学習に支障はないが障害者にとって優しい施設・設備は今後の課題である。

【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

1. 成績不良者・長期欠席者への援助

日常においては、指導教員が随時指導学生の成績、科目の履修状況を把握できる状態にあり、欠席の多い学生に対しては科目担当者からの警告が学生に発せられるとともに指導教員にも通知される。これによって指導教員は学生を個別に指導する体制がとられている。

また、半期ごとの保護者への成績送付（学生了解の下）とともに、年間2回教育懇談会を実施し、成績不良者に対し保護者を含めた相談・指導を指導教員が行うとともに保護者からの学生に関する相談にも対応している。ケースによっては学生相談室の臨床心理士が保護者も含めて対応している。

2. 学生の要望の聴取

本学では自己点検評価委活動の一環として、学生生活全般にまたがる項目を選んでアンケート調査を実施している。最近では、平成14年度、17年度、19年度に実施している。平成17年度には、今後この調査を隔年で行うことを決定した。17年度、19年度の調査結果は本学ウェブサイトに掲載されている。

アンケート調査は学内LANを使って集計している。25の質問項目のうち24項目は選択式であるが、最後に自由記述による学生の要望を聞く項目を設けている。

以下は、自由記述による学生の要望について、学生委員会が検討を加えた結果である。

(1) スクールバスについて

スクールバスを利用しない学生は、「混んでるから乗らない」という理由も少しばかり見られるが、概して肯定的な理由から、歩くことを選んでいると思われる。例えば、健康のためとか、車利用による行動範囲の広がりであるとか、待ち時間の短縮などである。

また、車内での利用マナーがよくないとの意見が出された。これについては、中に詰めて乗車するよう指導することが望ましいとされた。

(2) 施設について

学園（キャンパス）内、あるいは建造物内の案内表示がわかりにくいとの意見があった。これに対して、看板・室内での壁掛け案内などを活用することが考えられた。

また、学生食堂に関して、値段が高い、メニューの品数が少ない、盛りつけを綺麗にしてほしい、などの意見があった。これに対して委員会としては、食堂と学生との直接交渉の問題であるとしながらも、学生の声を食堂側に伝えるなど、委員会としてできることから対応したいとの意見が出された。

さらに、全学禁煙を望む声もあった。今後の検討課題としたい。

(3) 授業について

補講の時間割が学生に便宜が図られていない、との意見があった。「一日一科目で何日も拘束される」との指摘もあった。この件は学生委員会の問題というより教務委員会の課題である。教務委員会に対し改善を求めた。

保育科に関しては、実習を含めて体力的・精神的に厳しいという声があった。保育科の授業には「実習の時期」などの制約条件が多く、学生側の意見ばかりを取り入れるのは難しいことは事実である。対応には課題が山積していると思われる。

また保育科の授業内容で、実習に役立つ実践的な手遊び、歌などを取り入れてほしいとの声があった。これに対しては、保育科で検討することとなった。

学内の掲示が出るのが遅いという意見もあった。また、済んだことに関して掲示物が残っているなどの意見もあった。これに対しては、すぐに対応することとした。

教室内のエアコンの温度調節を望む、との声があった。これに対して委員会では、「暑い、という学生がいれば、寒いと感じる者もいる。吹き出し口の位置を確認するとか、上着を着脱するとか、ある程度は自分で責任を持ってほしい」との意見が出た。

(4) 教員および窓口職員の対応について

教員・職員の「質」を問う意見が出された。これは、学生委員会の範囲を超えているが、重い指摘として受け止め、全学に周知することとした。

5) 日常生活について

アンケート結果から、自己学習の習慣が少なく、多くの時間をアルバイトに費やしていることがわかった。その反面、卒業後の進路には、小さくない悩みを抱えていることもわかった。しかし、親に相談することは少なく、学生相談室や教員をその相談に利用する者はさらに少ないこともわかった。

毎日、相談者の来訪が引きも切らない学生相談室の現状を考えると理解しにくいだが、短大生は親・相談室・教員ではなく、友人に相談することが多いと推察する。

また、クラブ・サークル活動はあまり活発ではないという傾向がみられた。入りたいクラブがないという声に対しては、新たに作る方向での指導が必要だが、幸い、少しずつではあるがサークルを作る気運もみられるようになっている、今後も各教員に呼びかけて、もっと活発なクラブ・サークル活動の実現のために支援してゆきたい、との意向を確認した。

3. 学生に対する表彰制度

(1) 学長賞の授与

平成 14 年度より、卒業式において優れた実績を残した学生個人又は学生団体に学長賞を授与している。

最近 3 年間の実績は以下のとおりである。

平成 17 年度 成績優秀学生 3 人

成績が優秀であり文化活動に顕著な功績がある学生 1 人

平成 18 年度 成績優秀学生 2 人

成績が優秀であり文化活動に顕著な功績がある学生 2 人

平成 19 年度 成績優秀学生 2 人

◆名古屋経済大学短期大学部学生又は学生団体の表彰に関する内規 参照

(2) 名古屋経済大学学術研究センターによる顕彰制度（通称 Meikei Award）

学園創立 100 周年を記念して平成 18 年に発足した。

i 顕彰制度のシンボルマーク部門、ii 研究、論文部門、iii 個人功績、iv サークル活動、v その他の 5 部門からなる。

第一回（平成 18 年度）は 17 件が、第二回（平成 19 年度）も 17 件が表彰された。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。
--

とくになし。